沖縄かりゆしビーチリゾート・オーシャンスパ

目標6［安全な水とトイレを世界中に］
目標7［エネルギーをみんなにそしてクリーンに］
目標12［つくる責任つかう責任］

「エコアクション21」認証を取得 環境への取り組みを観光業の強みに

2004年、環境省の「エコアクション21」認証をホテル業界でいち早く取得した沖縄かりゆしビーチリゾート・オーシャンスパ。そこにあるのは「観光と環境はつながっている」との信念だ。

取材・文／仲藤里美

敷地内に多様なエコ施設を導入し、省資源、リサイクル、省エネルギーに努める。

先進的な取り組みに県外からも視察多数

沖縄県中西部、8万坪の広大な敷地に、プライベートビーチや緑豊かな森を有する沖縄かりゆしビーチリゾート・オーシャンスパ。1987年の開業当時から環境対策に力を入れ、多様な取り組みを進めてきた。

「まず初めに考えたのは『水』のことです」と説明するのは、同ホテルを所有する株式会社かりゆし代表取締役社長の玉城智司氏。「客室などから出る汚水を循環して利用できないかと考え、開業と同時に中水処理施設を導入しました。処理した水は、客室のトイレ洗浄水、施設内の植栽の散水などに使用しています」。

加えて、レストランから出る食物残渣を処理するための生ごみ処理機も導入。そこでできた堆肥は、敷地内にある自社有機栽培農園「かりゆし福寿ファーム」で肥料として使用するほか、地域の農園にも無償で提供しているという。

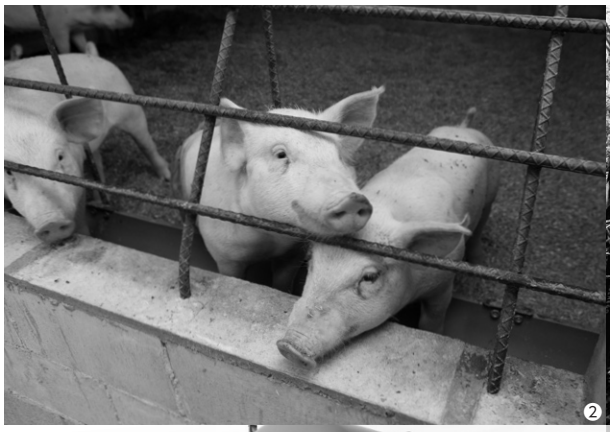
こうした方向性をさらに加速させたのが、2004年の「エコアクション21」認証取得だ。環境省が策定した環境マネジメントシステムで、事業者が効率的、継続的に環境対策に取り組んでいくための方法を定めている。同ホテルでは、認証制度のスタート後すぐに導入を決定。「ISO14001なども選択肢にはありましたが、日本独自の制度ということで、日本の企業に合ったきめ細かい制度が期待できるのではないかと考えたことが大きかったですね」と玉城氏は言う。

また、他に先駆けて認証取得することで、観光業としての強みになるのでは、という期待もあった。事実、沖縄県内の事業所で初、ホテルとしては全国でも初の認証取得となったことで「先進的な取り組み」として注目され、最近でも県内外の企業などが視察に訪れているという。

観光と環境の両方を常に意識しながら

認証の取得に至る道のりでは、排出するごみの量、電気やガスの使用量など、環境負荷に関わるさまざまな数値を測り、可視化していくための仕組みづくりに追われた。その後も、年に1回は更新のための審査があり、施設の視察、担当者との面談などを受けなくてはならない。そこで指摘されたこと、求められたことを次回の結果につなげていく必要があるのだ。

「大変な面もありますが、アド



❶敷地内にある「かりゆしの森」では、たくさんの生き物の命が守られている。❷かりゆし福寿ファームから生まれた「喜璃癒志（かりゆし）豚」。地産地消に貢献。❸節水を大きく促進する中水処理施設。❹天然ガスの発電・備蓄設備を導入し、CO_2排出量を削減。❺海洋環境について学ぶ「サンゴ植え付け教室」を開催。

バイスをいただける、ありがたい機会になっています。前回は『せっかくいい取り組みをしているのに、発信が不十分。ホームページなどでもっと発信していったほうがいい』という指摘を受け、現在改善している途中です」

並行して、新たな取り組みにも挑み続けている。その一つが、2017年に実施した液化天然ガス（LNG）の導入だ。二酸化炭素排出量の低いクリーンエネルギーとして注目されているLNGだが、県内のリゾートホテルでは初の試みとなった。現在は、系列ホテルの「沖縄スパリゾート エグゼス」も含め使用エネルギーの大半をLNGでまかなっており、環境負荷の低減はもちろん、燃料費の削減も実現できているという。

「事業規模を拡大すれば、ある程度はエネルギー使用量が増加することは避けられません。しかし、その比率を可能な限り下げていくことはできると考えています」

また、2008年の「国際サンゴ礁年」を機に、敷地内のプライベートビーチで、豊かな海を守っていくための「サンゴの植え付け」活動もスタート。宿泊客を対象に、サンゴの苗の植え付け体験プログラムも開催してきた。

「豊かな自然を守らなければ、私たち観光業は成り立ちません。環境と観光、両方を意識しながら事業を進めていく必要があるし、それを観光業界の中でも先頭に立ってやっていきたいと思っています」

その思いが、すべての取り組みの原点にある。